

高知県立学校の校名に関する検討委員会委員による 統合対象校訪問時の質疑応答について

1 訪問日程

高知南中学校・高等学校	平成28年6月21日(火)	9:00～10:00
高知西高等学校	平成28年6月21日(火)	10:30～11:30
須崎高等学校	平成28年7月5日(火)	9:20～10:35
須崎工業高等学校	平成28年7月5日(火)	10:55～12:00

2 参加者

校名に関する検討委員会委員：7名(全員)
各統合対象校：管理職、県教育委員会事務局：高等学校課再編振興室職員

3 内容

自己紹介、授業・施設見学、学校からの沿革や特色ある取組等の説明、質疑応答

4 質疑応答の概要

(1) 高知南中学校・高等学校

委員：「探究型学習と英語教育プログラム」については、PTAや生徒に対してどのようにアピールしているのか。

学校：本校が実践してきたキャリア教育と国際理解教育を二本柱として、中高一貫教育の6年間の実践をいい形で進めるようにと、機会をみて生徒や保護者にいろいろな場面で、時には広報用のパンフレットなどを作成して説明している。

委員：統合に向けての取組として、高知西高校との間で情報交換などの連携は進んでいるか。

学校：県教育委員会事務局が統合準備会を設立し、教育内容などについて、本校と高知西高校とで月1回は話し合う機会を持っている。また、本校も高知西高校もそれぞれ研究報告会を実施しており、そこにお互いが出席して共通理解を図っている。

委員：今後、統合する中高一貫教育校について、何か、感じるところはあるか。

学校：気になるのは、中高6年間のうち、中3の夏休みから高校に入るまでの中だるみである。今後、新しい中高一貫教育校でどうしていくのか。また、統合を視野に本校においても課題として対応していきたい。

委員：施設も充実し、生徒も元気で活発であると感じた。高知南の国際科と高知西の英語科のこれまでの取組をグローバルの教育内容にどのように生かしていくのか。

学校：最終的には両方とも世界で通用する人材を育てたいというところは同じ意識でやっていけると思っている。

(2) 高知西高等学校

委員：国際的な人材を育てる際に、高知西の残したい取組、高知南中高校の取り入れたい取組は何か。

学校：IB(国際バカロレア)を導入、実施していくには、今までの取組だけではハードルが高い。例えば、英語で論文が書けるぐらいの英語力を付けなくてはならないと思っている。さらに、英語だけでなく、地歴・公民、理科、数学の力も必要である。これまで以上に取り組んでいくことが必要であると感じている。

高知南では、知識構成型ジグソー法に取り組んでいる。新しい学校では、考え、行動する、思考力、判断力をあげていく高知南の取組を取り入れたい。

委員：県立中学校では、中3の受検がないことの中だるみの問題があるが、その対策をどのように考えているか。

学校：中学校からの導入を検討しているMYPは4年間の取組なので、うまく使えば中だるみをなくせると考えており、その仕掛けをしたい。

委員：非常に活発な授業、気持のよい生徒でよい学校だと感じた。統合後、両校の学校文化の違いをどのように生かしていけばよいと考えているか。

学校：統合が進む中で、高知南の生徒数が減った時は、高知南の取組に対応していきたい。例えば、中学生同士の交流や、学校行事への協力などである。

委員：統合後に向けて教職員の指導力の向上をどのように図るのか。

学校：職員会議では、教育センターで活動しているIBチームが勉強会をしている。夏の県教育委員会のIBワークショップも研修会として、何名か参加を予定している。

(3) 須崎高等学校

委員：普通科と工業科の統合で、これまで以上に幅広い学力や進路希望の生徒に対応するために、新しい手立てや重要だと思っていることは何か。

学校：保護者、生徒のニーズとして国公立大学への進学があり、これに対応できる入学当初からのクラス編成や、進学補習、校外模擬試験の実施を考えている。

委員：次の入学生が学科改編後の第1期生ということで、中学校をまわったの反応はどうか。

学校：総合学科から普通科になるということで、どうなるのか、中学校からは期待をもって見られている。

委員：統合に関して、同窓会、PTA、生徒、教員間に違いを感じていることはあるか。

学校：総合学科と工業科なので、見方や価値観の違いはあるが、昨年10月ごろから両校の同窓会やPTAがそれぞれ話し合っ、互いに理解しあっている。

委員：生徒たちは統合について、どう受け止め(思っ)ているのか。

学校：統合時、現在の在校生は卒業しているので、あまり実感はないのではないかと。

(4) 須崎工業高等学校

委員：統合する須崎高校と須崎工業高校では出口も教育内容も違うが、1年生の基礎的なところは共通ということについては、どのような取組が考えられるか。

学校：本校はもともと就職志望なので、両校が一緒になれば、進学については須崎高校のノウハウを活用し、また就職については本校のノウハウを活用していけると考えている。また、普通科の生徒でも、工業科の基礎科目を選択できるようにしており、ハードルが高くない資格をとりながら就職に繋げることができるように教育課程を工夫している。

委員：須崎高校とは全く文化が違うと感じたが、文化の違い生徒と交流できる場面は考えているのか。

学校：普通科の生徒も造船部や電気工作、機械工作の実験や実習など一緒に活動すれば、それを強みに高知工科大学のAO入試を受けるなど、県内にはないような学校ができるのではと思っている。

委員：大学の工業系の定員枠が多いのに、普通科の理系の生徒は実験の経験がないので、理学部や教育学部に進むことが多いが、統合校の普通科の生徒はどうか。

学校：本当に工学系には強みになると思っている。興味を持った普通科の生徒は、部活動等でやれば研究や発表の材料にもなる。

委員：学校行事や部活動を両校で一緒に行う計画はあるか。

学校：現在の1年生は、秋から何かやってみようと検討している。来年の1年生はもっとやりたいと思っている。校内のドラゴンカヌー大会も行っており、クラスの団結にも繋がるので、ぜひ一緒にやりたい。